

Letter from Samoa

サモア通信 7th
Apr.2018
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

Talofa!!日本では春の暖かさを感じている頃でしょうか。サモアは相変わらず真夏です。おかげで花粉症の被害に合うことはありませんでした。さて、新年度もサモアの様子や協力隊の活動を伝えていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。今回のサモア通信はサモアの学校の流れと自分の活動について綴っていきます。

○サモアの学校の1年

サモアの学校は以下のような4学期制です。

Term1	1/29~4/6	10weeks
break	4/7~4/22	2weeks
Term2	4/23~6/29	10weeks
break	6/30~7/15	2weeks
Term3	7/16~9/21	10weeks
break	9/22~10/7	2weeks
Term4	10/8~12/14	10weeks
break	12/15~1/27	6weeks

いかがでしょうか?ご察しの通り休みが多いです。サモアの先生に「breakは何するの?」と聞いたら、「Break is break」何もしないみたいでした。

○授業のシステム

授業は月~木は40分×7で金は50×5という構成です。必修科目は「英語」、「数学」、「サモア語」で、その他の科目は選択となっています。日本に比べると選択科目が多く、「好きなことを集中して学ぶ」環境が整っているのかもしれませんが。逆の捉え方をすると、「学ぶべきことを学ばずに」卒業してしまう生徒も多くなるような気がします。

○校内での自分の役割

我が校には物理、化学の先生はいません。というよりサモア全体として理科の先生が圧倒的に不足しています。そこで自分が現地の先生と協力しな

がら、高学年の化学、物理を教えています。また、実験方法についてもほとんどの先生が熟知していないため、学年問わず実験のサポートも求められています。ま



た、残り1年間理科の指導をしても自分が帰国したとき、我が校での理科教育は途絶えてしまう可能性もあります。そうならないために、帰国後も残るようなシステムやマテリアル作りにも挑戦しています。

○国際協力ってなんだろう

青年海外協力隊としてサモアでの活動も残り1年をきりました。自分は何のためにサモアに来ているのだろうと考えることが多くあります。果たして自分の活動はサモアの人達のためになっているのか不安に駆られることもあります。「協力隊として派遣されているからには何か残さなきゃ!」と気負ってしまっている自分がいたのかもしれませんが。しかし、重要なのは「目の前の人のために全力を尽くすこと」だと感じています。大きなことは自分にはできなくても、小さなことを続けることはできる気がするんですね。それがいつか自分が関わったサモアの人達にとってかけがえのないものになったら、それが1つの「国際協力」の形なのかなあと感じます。皆さんもこの機会に「国際協力とは何か?」ということを考えてみたらいかがでしょうか。それでは今年度もお互い素敵な1年にしていましょ! Fa soifua!!